

○議長（堀江 政武君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。それでは、届け出順に発言を許します。2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 皆さん、おはようございます。会派つしまの小島徳重でございます。本定例会一般質問のトップバッターとして登壇させていただく機会を得ましたことに感謝申し上げます。

質問に先立ち、昨日就任されました堀江議長にお祝いの言葉を申し上げます。議長御就任おめでとうございます。

○議長（堀江 政武君） ありがとうございます。

○議員（2番 小島 徳重君） 市民基本条例10条にうたわれていますよう、議会が市政の意思決定機関、市政運営の監視機関としての役割を果たせるよう、存分にリーダーシップを発揮なさってください。

退任なされた前作元議長におかれましては、長年にわたり対馬市議会の長として、円滑な議会運営、諸課題の解決に御尽力なされました。その御労苦に敬意を表しますとともに、今後とも、議長経験者としての豊富な経験をもとに御指導賜りますよう、お願い申し上げます。

さて、私、この1年間、「聞きます市民の声、届けます市議会へ、生かします市政に」をモットーに議員活動を行ってきました。市民の皆さんの声は多様であり、市民の思いを議会に十分に伝えることができたか、また、市政に反映することができたか自問し、初心に返り、この場に立っています。

それでは、通告に従い、3項目お尋ねいたします。

1項目め、戦争遺跡の調査、保存、活用についてお尋ねいたします。

対馬には、明治以降、国策として築造された砲台群等、戦争遺跡、あるいは軍事遺跡と呼ばれることもあります。戦争遺跡が数多く存在します。

これらの戦争遺跡は、対馬が東シナ海と日本海を結ぶ海防上の要に位置することから、日清・日露戦争に備え、明治政府が島全体を要塞化したことに始まります。対馬要塞群は、我が国の近代史において、国防上、重要な役割を果たした戦跡であるとともに、土木工学上の価値が高い近代化遺産でもあり、対馬にとって貴重な文化財であります。

昨日、国境離島特別委員会の報告の中で、長委員長が強調されたとおり、対馬市が目指す国境離島特別措置法の制定に向けた取り組みを強力に推進する上でも、対馬要塞が果たした歴史的役割に焦点を当て、対馬の存在を大いにアピールすべきだと思います。

遺跡の多くは100年以上の長年の風化で損傷し、中には公共事業等の影響で破損したのものもあります。早急に調査し、文化財に指定の上、保存し、観光資源としても大いに活用すべきであ

ると思います。教育委員会並びに必要なによっては市長の見解を求めます。

2項目め、対馬市の人口減少対策についてお尋ねいたします。

対馬市の人口は、昭和35年の6万9,556人をピークに減少の一途をたどり、平成22年の国勢調査では、3万4,407人。本年5月末の住民基本台帳上は3万3,000人余りとなっています。50年間で半減し、合併後10年間でも、8,000人程度減少しています。推計調査によると、今後も減少に歯止めがかからないとの予測がなされています。

日本創成会議が5月に発表した推計によると、2040年の対馬市の人口は1万4,076人と、これまでの人口問題研究所の2035年時点での推計2万2,730人をさらに下回るショッキングな数字が出されています。日本創成会議の推計は、特に20歳代、30歳代の子供を生む中心となる若年女性にスポットを当てたもので、その年齢層の減少率が顕著で、現在、対馬市で2,792人いる若年女性が約4分の1の691人にまで減少することが推計されています。若年女性の急激な減少は、人口の再生産力の低下となり、経済活動が縮小し、将来の対馬での地域社会の展望が開けないという厳しい現実に向直面することになります。創成会議は、若年女性の減少率が50%を超える896自治体を消滅可能性都市と名づけ、地域が崩壊するおそれがあると指摘しています。減少率が75.2%の対馬市も、残念なことに、その中に入っています。対馬市の人口減少の現在の大きな要因として、若者を中心に島外流出に歯止めがかからないこと、島内に残った若者に未婚者が多いことの2点が上げられます。

対馬市は、新市計画の中で、減少傾向が続く中で、あえて平成31年の総人口の目標を3万6,000人と設定というか、定めて目標とされております。その実現に向けて、どのような対策が実施されているか、特に、若者の定住策、結婚支援策について具体的な答弁をお願いします。

3項目めは、厳原港停泊中の韓国高速客船による環境汚染についてお尋ねします。

韓国からのある定期高速客船が厳原港に停泊中、長時間にわたりエンジンを作動させっ放しで、海面の汚染、大気汚染、騒音による環境悪化を引き起こしているのではないかと疑われます。このことについては、県環境部自然環境課が2月3日に厳原で開催した「長崎県生物多様性保全戦略」見直しの意見交換会において、市民からも指摘がなされています。意見交換会の新聞報道を受けて、3月7日の対馬新聞に読者の声として、「対馬の環境破壊を憂う」との厳原地区住民からの投書が掲載されています。その中で、官公庁の見解をお尋ねしたい旨の記載がなされていました。

また、県議会3月定例会においても取り上げられていますが、5月末現在、私が知り得るところ、状況が改善された様子は見当たりません。早急な対応が必要であると思いますが、対馬市、長崎県は実態をどのように捉え、どのような政策をとられているか、お尋ねします。

以上3点、市長はじめ執行機関の皆様には、簡潔明瞭で、市民が納得いく御答弁をお願いいた

します。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） おはようございます。小島議員の御質問にお答えを、私のほうから、まずさせていただきます。

議員御指摘のとおり、対馬は国境の島として国防上重要な役割を果たしてまいりました。遠く飛鳥時代の西暦667年に朝鮮式山城である金田城が築かれ、また明治に入って東京湾に次いで、日本で2番目となる芋崎砲台ほか4つの砲台が対馬で築造されるなど、時代は移っても、防衛上の対馬の重要性は変わらないどころか、昨今の国際情勢を考えれば、ますます重要性を増しているとも言われております。

さて、御質問の軍事遺跡の調査、保存、活用についてであります。軍事遺跡の代表的なものとして砲台跡があります。先ほど申し上げましたように、日本で2番目に砲台が4カ所設置されたのはじめ、その後、第2期、第3期とあわせて31カ所に築造され、弾薬庫などの附属施設とともに、その多くが残っております。

砲台跡のほかにも、美津島町の竹敷に旧海軍要港部跡がございます。これらの遺跡は築造時期が明治以降であります。県内において、明治以降につくられたもので、文化財指定を受けているものは、長崎市の旧香港上海銀行長崎支店、佐世保市の旧佐世保無線電信所等、歴史上、学術上、価値が高く、希少なものの数例であります。

本市の砲台跡遺跡については、歴史上、学術上の価値は認められるものの、現時点においては戦争遺跡という側面や埋蔵文化財の範囲基準も考慮すると、軍事遺産を文化財として扱い指定するには、時間をかけた十分な熟慮が必要ではないかと考えております。

ただ、竹敷の旧海軍要港部跡については、社団法人土木学会の日本の近代土木遺産においてAランクに指定されているほか、長崎県教育委員会が発行しております長崎県の近代化遺産にも掲載されるなど、その価値は広く知られているところであり、平成21年度の対馬市文化財保護審議会においても議題に上がり、当時の委員による現地視察も行われております。その時点では、所有者の意向と条件整備が整っていないこともあり、継続して議論していくことを申し合わせ、現在に至っているところであります。

近年、市観光物産協会の観光パンフレットで砲台群が紹介され、また、砲台跡をメインとしたウォーキングイベントが開催されるなど、市民や観光客の関心も高まってきております。

いずれにいたしましても、これらの遺跡は貴重な近代化遺産であり、市民や観光客が安心して見学できる施設については、本市の観光資源として有効なものではないかと考えています。また、子供たちへの平和学習等の場としての活用も考えられるのではないかと考えています。今後は、地権者や地域の意向及び文化財保護審議会の委員の方々などの御意見等を伺いながら、検討して

いきたいと考えております。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） おはようございます。小島議員さんの質問に答えさせていただきます。

1点目の軍事遺跡のある意味、活用の分野になるわけですが、これら遺跡に対しましては、市及び観光物産協会では、平成23年度に緊急雇用創出支援事業というものを活用し、若干であります。手を入れれば、安全に見学等ができる上見坂、姫神、郷山の3カ所につきまして立木の伐採や除草作業を行い、さらに、「対馬要塞まるわかりガイドブック」を3,000部作成し、マニア向けに発信するとともに、観光物産協会ホームページのほうにも、掲載をし、観光客の方々に御利用いただいているところであります。

なお、今年度に入り、福岡の旅行社が6月から8月のウオーキングツアーとして、上見坂と姫神をめぐる対馬要塞ウオーキングを企画していただき、6月12日から7月27日の間、全11回のツアーが行われる予定でございます。しかしながら、所有権の問題、それから施設周辺の除草、清掃など、維持管理の面での課題もあり、地権者や地区との調整を図っていきたいと考えております。

なお、これ以外にも、眺望や雰囲気の良いところもございますが、道路の未整備、老朽化等による危険物件、それから所有権の問題など、さまざまございますので、比較的安全に見学できるところを中心に観光資源として活用していきたいと思っております。

次に、2点目の人口減少対策についてでございますが、若者の、特に定住対策の件がございました。これにつきましては、先ほど、日本創成会議の報道を通しての数値のお話がありました。現在、地方自治体が1,718自治体ございますが、そのうち896の市町村で、先ほどおっしゃられましたように、20代から30代の女性が5割以上減ることによって、1万人未満の人口になるのが、そのうち523市町村があるというふうな、とてもショッキングな内容です。さらには、その報道の中には、消滅するおそれさえもあるみたいな表現がございました。この報道は報道としまして、私ども、そこに向かって政策をどう打ち込んでいくのかということが、すごく重要なことだろうというふうに思っております。

本市の人口減少のこの要因という部分につきましては、合併後の厳しい財政状況から公共事業の抑制により、水産業や農業などとの兼業世帯が多い現状で、新たな雇用の場を創出できなかったことが原因の一つと捉えております。加えて、水産業における燃油の高騰、魚価の低迷、林業においては材価の低迷と、厳しい状況と相まって若者の大学や専門学校への進学率も高まり、第1次産業への就業離れというものが大きな要因と考えております。

本市におきましては、このような状況の中、平成21年度から公共事業等の拡大、さらに緊急雇用創出事業等による雇用の場の確保など、一定の効果は見られたものの、若者をはじめとした

労働力の島外流出には、歯止めをかけることには至っておりません。

また、23年度から始めました島おこし協働隊による地域おこし、地域の資源を活用した起業化に向けた取り組みで、1期生5名のうち4名が現時点において定住をしております。

また、平成25年度からの域学連携による地域づくり事業において、外部から目線による新たな魅力の発見、地域課題の解決、地域の活性化のための基盤づくりを進めております。

今後の取り組みとしましては、第1次産業である水産業、林業、農業のそれぞれの強い基盤づくりや、新しい担い手を生み出す環境づくりのための支援の強化を継続して行っていきたいと考えます。

次に、観光産業においては、韓国人観光客は、対馬独自の観光産業にとって、雇用の場をつくり出す機会創出のシーズであります。さきに申しました域学連携による都市部からの交流人口の拡大を図るため、今年度、域学連携地域づくり推進計画を策定し、都市部大学の研究フィールドとして、さらなる受け入れ強化を図り、元気な地域を維持していくとともに、対馬ファンとなってもらふことで、その後の定住を促していきたいと考えます。

また、先ほど申しました島おこし協働隊制度におきましても、継続して行い、2期生、3期生の定住を促す環境づくりを行ってまいりたいと考えます。

また、本年度より第2次対馬市総合計画の策定に取り組んでおりますが、地域マネージャー、外部及び内部の集落支援員を中心とし、地域の魅力や宝の発掘をはじめ地域の大切な資源の活用方法、地域としてのかかわり、地域の将来ビジョンを網羅した地域づくり計画を策定し、総合計画へ反映させ、実行していくことで、各集落が維持できる仕組みを構築していくこととしております。各地域の資源や魅力を生かした地域間連携によるなりわい、産業づくりについても、取りまとめ、総合計画に反映させ、実行していくことで、雇用機会の拡大による定住促進を図っていくことと考えておるところであります。

また、政府におきましては、この人口減少や高齢化で厳しい財政状況が続く地方に対し今国会で成長戦略プランが発表されることとなっており、その大きな柱である「地方の元気創造プラン事業」が拡充される見込みであります。先ほどから申し上げております、地域資源を活用して、そして地域密着型企業を多く立ち上げ、多くの雇用を生み、地域経済を活性化させる施策であります。そして来年度からは、これらの事業によって実績を上げた自治体に交付税の加算規模の拡充が検討をされており、今月下旬発表予定の骨太方針に盛り込まれる予定であります。現在、関係部局へ、制度の流し込み、説明会等を実施をしており、対馬市として早期に取り組みが始められるようにしていきたいと考えております。

最後に、地理的不利条件により、要因の是正につきましては、国境離島である対馬市において、さきに述べましたが、みずからの創意工夫による努力のみでは到底解決できないものであること

から、国土保全の観点及び国境離島の振興策について、皆様方と国境離島特別措置法の制定に向かって働きかけを行っているというふうに御理解いただければと思います。

次に、この人口減少における結婚支援策のお話がありました。対馬市では社会福祉協議会が主体となり、平成22年度より長崎県の制度を活用し、独身男女の出会いの場を提供するイベントを毎年数回、対馬会場及び福岡会場などで実施をしております。

なお、平成26年度から、県の補助対象外事業に対し市の補助金を支出するよう予算化しております。

また、県においては、離島過疎地域での出会いの場の提供のためのイベント補助や婚活サポーターの養成、婚活講座や結婚支援フォーラムの開催などに取り組んでおります。今後も対馬市社会福祉協議会を中心に、晩婚化や未婚率の上昇に歯止めをかけるため、結婚を希望する独身男女に対し、イベントの開催などを継続して実施をしていきます。若者の出会いと結婚を支援していきたいと考えます。また、島おこし協働隊制度を活用し、縁結びのブライダルコーディネーター業務を構築するのも、一つの方法なんではないかというふうにも考えておりますので、今後検討をしていきたいと思っております。

次に、大項目の3点目でございますが、厳原港接岸中の韓国高速船による環境悪化の問題でございます。

これにつきましては、高速船が接岸後、停泊中に船内の電気機器を稼働するために必要な電源供給用の補う補機、発電機を稼働中に発生する騒音等の問題であると理解をしております。この韓国高速船のうち、株式会社大亜高速海運所有の「オーシャンフラワー」につきましては、停泊中に電源供給用の補機、発電機の排気口を沖側といいますか、のほうに向けるため、騒音等の問題は発生をしていないものと判断をしております。

また、未来高速株式会社所有の「コビー」については、停泊中に電源供給用の補機、発電機の排気口を逆に陸側、国内ターミナル側に向けるために、このような問題が発生しているのではないかと認識をしております。この問題につきましては、コビーは毎週火曜のみを運休し、週6回、9時55分に入港をし、16時30分に出航しますので、約6時間30分の間、厳原港へ停泊をします。週6日間のうち、コビーはオーシャンフラワーよりも先に入港するため、オーシャンフラワー入港時には対岸の久田の岸壁のほうに移動しますので、騒音は発生はしておりますけども、(発言する者あり) どのように、これを。

今の騒音の話、それから海洋汚染の話、大気汚染の話等もございます。これらにつきましては、それぞれ私どもも調べてるのもあります。県も調査をしてるのもあります。そして、県も調査がされてない部分もございます。大気汚染等についてはですね。これから、県より、厳原港湾の管理というものは、当然市が委託をされております関係上、振興局のほうに確認をしましたところ、

このような問題については把握をしており、現在検討中であるとのことでございます。市といたしましては、コビーに関しまして、週3日間の停泊中、騒音等の問題が発生している状況を会社のほうに御理解いただき、巖原港に入港する際、全便を久田岸壁のほうに移動の協力をお願いしてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） まず、戦争遺跡についての取り扱いについてですけれども、教育長お答えいただいたとおりで、内容的に十分遺跡の重要性を把握していただいているわけですが、それで、その遺跡の存在、重要性は認識してあるけれども、今のところ、文化財には指定するのには、ちょっと時期的に尚早というか、そういうお考えだというふうに基本的に受け取りましたけど、そういうことでよろしいですか。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 時期尚早ということも少しはあるかもしれませんが、私としては、先ほど申しましたような幾つかの理由で、慎重に文化財審議委員会のメンバーの方々と検討していくということで、考えております。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） ぜひ、その検討を重ねていただきたいと。なぜ、私がこのことを取り上げたかと申しますと、文化財に指定をされていたり、あるいは、行政がもっとしっかり把握をしてあれば、遺跡の破壊とかが起こらないんじゃないかという事例を一つ挙げたいと思います。

教育長には、資料、写真を別に渡していますけど、この写真は、いわゆる美津島町緒方地区のほうにある三浦湾の防御をするためにつくられた折瀬鼻砲台です。この写真を見ていただくとわかりますように、これは、もともとの砲台は、ここをぐるっと岸壁が取り囲んで砲台があったんですね。ところが、これが、平成8年から18年に防波堤が内側に築かれたんです。この遺跡よりも内側です。その防波堤というのは、この写真では、ここに写っています。薄くですね。つまり、この位置関係を示すと、こういうふうになるんですよ。これが、いわゆる対馬海峡側、東水道ですね。ここに防波堤が築かれたために、反射波がはね返って、ここの砲台がもう崩壊寸前です。この防波堤の工事そのものは、国の事業で進められた。このようなことが、まだほかにもあります。美津島の雞知、昼ヶ浦線のところに大平砲台というのがあるんですが、ここは美津島町時代に町道を築いたときに、文化財だというか、遺跡だということに気がつかないのか、ついていたのか、わかりませんが、そこの間を、砲台の間を道路がつけられています。それで、教育長おっしゃったように、東京湾を防御するために、明治の初期、20年前後に砲台がつくら

れた。その次に対馬が2番目につくられたんですね。それぐらい対馬がやはり国防上重要な位置だということを示しているのが、これらの31の砲台群やあるいは竹敷の要港部の施設ですね。万関水道もそうですね。その一環です。それらのものが文化財に指定するかしらないかは、それぞれの自治体の考えがあるんですけども、早くされておけば、こういうことは起きてないわけです。

それで、今県内では、長崎と佐世保の1件ずつということでおっしゃいました。全国的な数字を申し上げておきます。戦争文化財の指定が平成12年時点で、国指定が21件、県指定が15件、市の指定が88件、合計124件あります。それから、国の登録文化財と言われるのが63件、市町の登録が13、北海道が3件、道としてやっています。北海道の登録されたのは何かというと、函館砲台です。函館、津軽海峡を通る船を対馬と同じように、やはりこれはロシアを仮想敵国として、日露戦争の準備するためにつくった砲台。これは6基しかありません。砲台は、その6基の砲台を、市の函館市が調査をして北海道が文化財として登録をしています。対馬は31あるわけですよ。そして、竹敷の要港部のAランクの指定。Aランクというのは、国の文化財でいえば、重要文化財に当たるぐらいと言われていています。だから、万関の水道も含め砲台群も含め、対馬全体が要塞として明治の時代に、国に国防上重要な役割を果たしたわけです。だから、そういう意味では、一つ一つ取り上げるよりも、やはり、対馬全体として、ぜひ、教育委員会あるいは市長部局、御検討いただいて、文化財としての早急な指定、そして保存、そして、先ほど市長がおっしゃった観光資源としても十分生かせるわけです。

観光資源として、対馬、これだけの国防上、対馬が重要な役割を果たしたということがアピールできれば、これは国境離島の制定にもですね、対馬がなかったら日露戦争にも勝ってないんだよと。先ほど言われた、このリーフレット。これは観光物産協会がつくったものです。これ見てください。戦わずして勝つために。いわゆる抑止力として対馬が重要な役割を果たしたわけです。そして、第2次世界大戦終了まで、対馬は要塞の島としてベールに覆われて道路の開発もおくれた。意識的に軍は道路も、国防上必要な分だけしかつくらなかつたわけですから。そういうことが、今の道路行政のおくれにもつながっているわけです。そういう意味で、ぜひ、このことについては、教育委員会、市長部局、一体となって、もう少しローズアップしていただきたいと、そのことをお願いをして、このことは切りたいと思います。

それから、人口減少対策につきまして、このことにつきましては、市長おっしゃったように、いろんな施策、取り組みをしてあります。だから、今、人口は減少する中で、あえて平成31年には3万6,000人ということを目指したい、目標としたいということで、打ち出してあることについては、私は、これは、ある意味で、行政としては必要なことだと思います。減少しているから、それを食い止めるだけの施策じゃなくて、大きな目標を持って取り組んであることには、ぜひ、それが成就するように、今述べられたような施策を具体的にやっぱり実施していただきたい



いと思うんです。

私は、きょうは、ちょっと違う視点で提言をしたいと思います。

これは対馬市の人口の移動をですね、図表にあらわしてみました。これは平成12年と17年。それから22年の国勢調査をもとに市の担当者から資料をいただいたものを私なりに作成しました。これ多分、市役所はパソコンで、すぐ操作すれば、グラフ化できるだろうと思います。いわゆるコーホート図と言われるやり方だそうです。私は手作業でやってみました。これは何をあらわしているかという、青い線は、平成12年の時点と17年の時点の国勢調査の人口が比べて、平成17年の時点で、例えば、このところですね、年齢が25歳から29歳の方が、5年前は20歳から25歳になりますね。5年前には。つまり、5年前いた人口から現在の平成17年のときの人口を引いたら、2,523名いた同世代の人たちが5年後には1,597人になったと。つまり5年間で、その世代の方々が926人対馬から出て行ったと。ということは、1年間で約185名が25歳から29歳の人が出て行ったということを示しています。それを全部5歳区切りであらわしたら、同じようなやり方で、赤いのは平成17年から22年です。5年後、5年後を見てみたら同じ形になっています。ここがゼロです。つまり、一部のこの世代を除いたら、全部の世代が島外に流れているということです。だから、人口減少止まらないんですね。それを食い止めるために、今、市長はいろんな施策打ってるということですから、それに期待をしないとということです。

私がきょう提言したいのは、この1年間に百数十名、200名近くが出ていく。その世代を食い止めるためにどうするかという、あえて狭いところだけで提言をしたいと思うんですけど。

それで、外から呼び込む。協働隊の方。対馬に良さをわかっていただいて居ついでくださった。それから市職員の中にも、島外からやってきて、すばらしい考え方で仕事をしてある。そういう方もいらっしゃる。しかし、その方だけでは、島の人口は限られた数しか増えないと思うんです。対馬で生まれ育った人間が対馬に帰って、対馬で社会を支えようという風土をつくっていただきたいということです。

それで、具体的にどういうことかいうと、高校を卒業して、専門学校なり、大学なり、あるいは就職した人が5年後に、4年後、5年後に対馬に帰ってくる呼び戻しの施策です。それをぜひ考えていただきたいと。呼び戻しの施策として、うまく行っているケースとして、きのう、脇本委員長から報告があった、病院の看護師さん、医療技術者の奨学生の問題がありましたね。この人たちは、いわゆる企業団の奨学金を受けて、今、十七、八名の方が学んでると。この人たちは確実に対馬に帰ってきます。それと同じような制度を対馬市として考えられないかどうか、市長のお考えを伺いたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 1点目の戦争遺跡のお話の中で、抑止力遺跡なんだよと、ある意味と、  
というような解釈をいただきました。そのことがひいては、私どもが求めている特別措置法のお願  
いのシナリオにも使えるじゃないかという御提案だと、ありがたく承りたいと思っておりますし、  
今後、それらのことをつけ加えていきたいと思っております。

私は、時たま、1172年にさかのぼって、元寇の役のとき、見捨てられた私たちに対して国  
は何をするのかというようなことも、時たま言っていたんですが、逆に、こういう明治以降の戦争  
遺跡の残っているという意味というのをつけ加えて、今後は言っていきたいというふうに思いま  
す。

次に、2点目の人口減少対策のことですが、確かに外の人を入れるだけでは、それで全てバラ  
色になるとは私も思ってません。ただし、私どもの対馬の人たちが、自分たちの資源というもの  
を十分に理解してない部分が今までであった。だから、それらを外の人を目線というものを入れる  
ことによって、僕らは目をもう1回見開こうじゃないかということで、これらの人たちを、導入  
をしてるといふふうに御理解いただければと思っております。

それと、いみじくも質問の中で風土づくりという話がありました。それらの価値観をつくる  
というのが、すごい、地元に戻って来なければいけない、何をどうしていこうとか、東京と同じ  
ような生き方ではない生き方というのが、この対馬で何があるのかということの価値観づくりと  
いうのがすごく大事だと思っております。そういう意味において、外の人による価値観づくりと  
いうことにも、正直期待をしてるところです。

そういう中、呼び戻し施策として医療従事者養成のための奨学金制度等があるがと、それ以外  
の何か考えられないかというふうな御質問でございます。

まさに、私ども、それをどのように組み立てたらいいのか、すごく、今、悩んでる部分だと。  
どこに、どのように打ち込むのか。対馬が今後どのように生きていくのかをやはり明確にしない  
といけない。そういう意味において、今から取り組んでおります総合計画の中で、それらが反映  
できればというふうにも思いますし、皆さん方からのそのあたりのお知恵というものも拝借した  
いというふうなお願いをしておきます。

○議長（堀江 政武君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 具体的に申し上げますと、看護師さん、医療技術者、これはすご  
く病院の事務長さんをはじめ、すごく幹部の方々、このことを自信を持ってというか、喜んであり  
まして、同じようなことが教育、教員養成ですね、あるいは保育士さんの養成、あるいは救急救  
命士とか、社会基盤を支える仕事をする人たち。この企業団がつくったような奨学金なり、基金  
の制度で、やはり、ふるさと対馬を支えようという人間をぜひ、これは小中学校の教育、また、  
これは別の機会を捉え、提言したいと思っておりますが、そういうことを申し上げ、中と関連して、し

かし、基金として設定をすれば、子ども夢づくり基金をつくられました。次は、若者ふるさとづくり基金とか、そこのところにスポットを当てたものをつくって、ぜひ、さっき言った1年間に百七、八十名も出ていく人間が、ぜひ、対馬に帰って仕事をしたいと、そのためには、何らかの特典というか、プレミアムついた制度を打ち出すことは有効じゃないかと思うんです。現に、私が育った教育の世界でも、私たちの先輩方まで、昭和40年まで、対馬で270名以上の方が奨学金を受けて、対馬で教員をされました。そのときには、地元の間がいわゆる8割までぐらいいえて、教育界を支えていました。だから、分野はいろいろ、これは御検討下さい。そういう施策をぜひ、子供の次は若者という、そこにスポットを当てていただきたいということをお願いをします。

それから、時間が少し足りなくなっただけですけど、次、結婚のしてない方の数。20歳代856人、30歳代650人、50歳代まで入れると対馬で未婚の方1,977名です。女性1,335名です。これが未婚率、男性40%、女性も25%です。それで、これが何を次引き出すかということ、出生者数の減少になっていきます。出生者数が平成12年は410人いました。現在は二百七、八十で止まっています。人口減少を引き起こしてますね。それで、今社協に任せていってらっしゃるとおっしゃいました。ぜひですね、その社協に結婚支援の活動をお任せなさっていますけど、これは市長部局で、専門の部局を設けて専任でやれないでしょうか。社協の方、一所懸命やっております。担当の方、私、2人とお会いしました。すごく一所懸命ですけどね。社協、30幾つの業務を抱えた中で、結婚支援の活動は2つ、30幾つの中の2つですよ。だから、それに専念できないですね。そして成婚率も3年間で2つでした。やはり、一所懸命、結婚支援に取り組んでいるところは、例えば、福井県とか、茨城県とか、これは1年間に100件以上の成婚率です。県全体でも、長崎県は1年間に10件に満たないです。そういう意味では、対馬市が最も取り組むべき重要な課題は人口減少を食い止める。その中の私はあえて1点か、2点だけをきょうは提言をしましたが、ぜひ、そこのところは重く受けとめていただいて、最も重要な施策として、どの部局かに、そういう担当者を置いていただきたいと。もし、万が一、それがダメなら、社協に人を派遣するぐらいして、社協にお任せするなら、人と予算をもっと社協で厚くしてやるべきか、どちらかの手段に、ぜひ、結婚をしたいという人、未婚者のうちの社協のデータによると、8割はぜひ結婚したい。結婚したいですよ。20代の方は9割ですよ。これだけの合計3,000人の未婚者が対馬にいるという現実をしっかり捉えていただきたいと思っております。

それから、韓国船のことについては、時間なくなりましたから、後で写真を環境担当のところに持っていきます。油が浮いています。騒音は私も3回行って見ました。

○議長（堀江 政武君） 時間が参りましたので、簡単をお願いします。

○議員（2番 小島 徳重君） はい。そういうことですから、後で、また部局には伝えます。

以上です。

○議長（堀江 政武君） これで小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は11時5分からといたします。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 皆さん、おはようございます。清風会、1番議員の春田新一でございます。

また、第2回定例会の冒頭において、新しい堀江議長さんが誕生されました。議会の代表として、リーダーシップを最大限発揮していただきたいというふうに思っております。

また、5年間の長きにわたって、議長職を務めていただきました作元議長にお礼と感謝を申し上げます。

通告をしていました市政一般質問をさせていただきます。

まず、1点目でございます。

農地中間管理機構の対馬市の取り組みについてということですが、これ、私も、今年度から都道府県が設置をされて、4月1日から始まっておりますので、あまり中身は詳しくわかっておりません。それで、市のほうも、県からの委託ということで、なかなか4月1日からの始まりですので、取り組みがまだ完全にはなっていないというふうに思いますが、どのような取り組みで、どのような耕作放棄地をなくしていくのかということについて、答弁をいただきたいなというふうに思っております。

また、2点目ではありますが、市道仁田志多留線の改良工事についての進捗状況ということであります。起点は仁田から終点が志多留ということで、伊奈から志多留間は非常にすばらしい道路が改良されて、日常の生活にも、皆さんの便宜を図ってるんじゃないかなというふうにも思っております。

その中で、起点側が昭和の50年代ぐらいに始まった改良でありますので、終点が終わる前に起点側も扱わなければならないという状況に、今、現況じゃなかろうかというふうに思っております。その中で、2つ、3つの改良を進めなければというふうに、私は現況を見ながら感じておるところであります。